

一般質問

問 家でもない、学校でもない不登校や引きこもり、ニートといった若者たちの第三の居場所としてフリースペースの設置と支援を。

答 子ども関係団体や学校長で組織する児童センター運営委員会によれば、不登校の児童生徒が児童センターを居場所としている実績がある。



遊び場が居場所に

問 皇室の温かさや、象徴としての務めについても伝えていくべきと考えます。市の考えは。

答 天皇・皇后が親善のために外国を訪問したり、式典への参加や被災地への訪問を例示し、外国や国民への様々な関わりを理解できるよう指導している。



問 竹島問題、北方領土問題について、どのような指導を行っているか。

答 竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることや、我が国が平和的解決に向けて努力をしていること等について、多面的・多角的に考えるよう指導している。

問 若い世代が将来の妊娠に備え、日々の生活や健康と向き合うプレコンセプションケアの現状の取り組みと課題は。

答 令和6年3月に策定した第2期元氣・健康プランに基づき、ライフステージごとに事業の充実を図っている。

問 成人女性向け事業に加え、今後は男性や思春期・青年期対象の幅広い世代への事業実施と啓発を行う。

問 こども家庭庁の健康相談支援サイト、スマー

問 子どもの居場所の支援状況は。

答 市内東西それぞれに児童センターを設置し、子どもたちの居場所になっている。

問 0歳児から中高生までを対象に幅広い事業を展開している。中高生を対象にしたスポーツタイムや夜間開館は、本市児童センターの特徴である。

フリースペースの設置と支援を

問 全ての子どもが自由に遊ぶことを保障するプレーパークの設置を。

答 本市では、現時点においてプレーパークを設置する考えはない。

問 既存施設の効果的活用、組織間と地域、企業との連携を深めて、子どもたちとしっかり向き合うことで本市独自の子どもの居場所ができていくと考えている。

問 学習指導要領によれば、全ての教科において愛国心の養成を図ることと認識する。市の手法は。

答 我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養うことができるよう指導している。

問 防衛の意義と自衛隊の役割を正しく理解させる必要があると考えます。市の考えは。

答 集団的自衛権の行使や自衛隊の災害派遣について調べ、我が国の安全や防衛について十分に考えさせるよう指導している。

問 建国神話について、市内小・中学校での対応は。

答 読み聞かせを楽しんだり、感想を伝え合ったりするなどの指導をしている。

問 竹島問題、北方領土問題について、どのような指導を行っているか。

答 竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることや、我が国が平和的解決に向けて努力をしていること等について、多面的・多角的に考えるよう指導している。



からだや性・妊娠を知ろう

お出かけサポートタクシーの拡充を

問 川越市や所沢市の医療機関利用者のニーズに応える広域化の考えは。

答 令和2年4月から運行範囲を市内から富士見市と三芳町を加えた2市1町に拡大した。

問 令和5年度の実績では、91・2%が市内の乗降で、富士見市と三芳町の乗降は8・8%に留まるため、現時点で運行範囲の更なる拡大は考えていない。



子どもの居場所
田中 早苗 議員



小・中学校での
愛国心の養成
金濱 高顕 議員



若い世代の健康支援
古越 孝子 議員

市政を問う！

一般質問

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。今回の議会では、18人の議員が一般質問を行いました。掲載した内容は各議員本人が要約したものです。なお、全ての質問と回答は市議会ホームページの会議録で閲覧できます。(2月中旬掲載予定)



図書館の利用促進
坪田 敏孝 議員

問 北海道恵庭市立図書館のように自習室・休憩室を設けては。

答 上福岡図書館では、夏休みなど長期休暇の間は集会室等を開放する予定である。軽食の販売を予定しており、サードプレイスとしてくつろぎながら滞在できる環境整備を進める。

物価高騰下のひとり親家庭支援

問 ひとり親家庭への支援の考えは。

答 直接的な経済的支援も重要だが、稼ぐ力を高める支援が必要と考えており、市として何をすべきかを考えたい。

小学生への学習支援

問 学習支援実施の考えは。

答 所得による限定がない形で、多様な学習支援



誰一人取り残さない学びの保障を

農と食をつなぐ取り組み

問 地場産農産物を飲食



地酒づくり始まる

規格外野菜の活用

問 規格外野菜を子ども食堂等に活用しては。

答 現在、地域内の農業者と子ども食堂等の関係者と個々のつながりの中で行われている。

本市としては、農業者と強いつながりを持つJAいるま野との情報交換や、農業者の意見や意向等を聞き、今後の連携について検討する。



ふじみ野特産品づくり
加藤 恵一 議員

問 地場産農産物の6次産業化の取り組みは。

答 市観光協会では、酒蔵もない地域であるが市産のお米を原料とした地酒づくり事業を開始した。市誕生20周年を契機に販売できるように現在進めている。

問 店につなげる取り組みは。

答 女子栄養大学から市産の農産物を使用した商品開発を行いたいと要望があり、市内の農業者や飲食店とのマッチングを行った。

問 農業者や飲食店とのマッチングを図ることにより、地産地消につながると考える。